

2001 年

出版学校日本エディタースクール・上海出版印刷高等専科学校

日中出版教育校際学術交流会論文集

中国出版教育の特徴と発展

施 勇 勤 (Shi Yong Qin)

出版活動は中国において悠久の歴史がある。印刷複製の出版活動は遅くとも紀元 7 世紀の終わりから 8 世紀初頭に行われていた。中国の商業出版活動の始まりは紀元元年前後で、晩唐五代時代に成熟した。中国出版専攻教育の紀元は 19 世紀末で、100 余年の歴史があり、新中国成立以後に中国出版教育事業は繁栄を迎えた。

1. 中国出版教育の発展と歴史

長い間中国の出版業界の職業教育と技能の学習は師から弟子へ受け継がれる形で行われてきた。学校教育といった形で出版専門教育が行われるようになったのは、最も早いものは 19 世紀に現れた。筆者は資料調査から発見した。1897 年に設立された商務印書館は、創立後まもなくして、“商業補修学校”を開設し、一群の図書出版発行の商業的人材を育成していたということである。当時の中華書局、世界書局、開明書局、広益書店にはみな商務印書館補修学校の学生がいた。20 世紀になり、30 年代に商務印書館は各種訓練クラスを実施し、様々な商業業務の人材を訓練していた。従って、中国出版専攻の学校教育の歴史は 100 余年を有している。

新中国設立後、出版教育事業は次第に繁栄し始めた。1953 年 10 月、中国の印刷業、出版業の発祥の地であり中心地である上海で、“上海印刷学校”が設立され、これは中国で最初の出版印刷業務専門人材養成の教育機関であった；初期は平版印刷、凸版印刷、平版製版、凸版製版の 4 つの専攻が開設され、1960 年に印刷機械専攻が開設、1960 年に上海出版学校（1957 年 9 月設立）が上海印刷学校に併合された。1962 年発行専攻が試験的に開設され、20 世紀 80 年代に美術設計と編集専攻が増設された。1987 年に国家教育委員会と国家新聞出版総署の批准を経て高等学院に昇格、現在では上海出版印刷高等専科学校は既に出版、印刷、設備管理、美術の 4 つの学科と、出版とコンピューター編集技術、電子

出版（文），出版商業事務，印刷技術，印刷図文 図（挿絵）と文 情報処理，電子出版（理），包装技術，包装と印刷管理，印刷設備工程，メカトロニクス，芸術デザイン，広告と書画の表装の合わせて 12 の専攻を開設し，工，文，芸の結合した多学科多部門の高等専科学校になった。

1958 年 8 月北京に文化学院が設立され，出版学科と印刷工芸学科，および図書発行育成訓練クラスが開設された。1961 年文化学院が廃止され，印刷工芸学科は中央工芸美術学院に併合された。1963～1965 年，北京，遼寧，陝西等の省都市にも前後して印刷職業学校や中等印刷技術学校が設立された。

1978 年 12 月，国務院は正式に我が国初の出版印刷専攻の本科単科学校である北京印刷学院を批准した。1983 年，武漢大学は我が国初の本科学校教育制度の図書発行専攻を開設した。1985 年北京大学，南開大学，復旦大学の編集学専攻で学生募集が行われた。その後，清華大学，四川大学，武漢大学，西北大学，東北師範大学，河南大学，中国科学技術大学，南京大学，上海大学，北京師範大学等の学校が相次いで編集学専攻を開設し，安徽大学，成都大学が図書発行専攻を開設した。2000 年 8 月，武漢大学，武漢水力発電大学，武漢測量製図科学技術大学，湖北医科大学が併合して新設された新武漢大学には印刷工程学院が設立され，電子出版専攻，印刷と挿絵複製専攻，包装工程専攻が開設された。

多くの大学の出版系統専攻は単一学位教育だけではなく，双学士制の教育方式を採用している。例えば武漢大学と清華大学は双学士学位の養成方式を採用している。1986 年以来，河南大学，南京大学，武漢大学，中国科学技術大学などの学校は中国文学学科，図書館学科，マスコミ学科から出版教育方面の修士と博士研究生を育成している。例えば 2001 年北京大学情報管理学科図書館学博士は“マスメディア学と出版事業管理”方面の博士研究生を募集；武漢大学大衆マスメディアと知識情報管理学院図書館学博士は“文献と出版”方面の博士研究生を募集した。

出版専攻の中等技術教育と職業育成訓練は 60 年代に第一段階の繁栄を迎えた。80 年代になり第 2 期の繁栄時期に突入し，全国 20 省，自治区と直轄市はみな出版専攻系統の中等専門学校と技術工芸学校を設立した。各出版局と職業協会は各種類の育成訓練クラス，技能クラス，研修クラス，研究討論クラス等を設立した。

90 年代以後，各出版教育部門は専攻育成目標とカリキュラムに対して比較的大規模な調整を行い，新しい社会情勢の人材に対する需要に適應させた。現在のところ復旦新聞学院が自身のブランドと豊富な人材を利用し，“出版と編集専攻”“インターネットマスメディア専攻”の 2 つの新たな専攻の設立を申請し，伝統的出版と電子出版マスメディア方面の人材を育成している。

2. 中国出版教育の特徴

(1) 中国出版教育はすでに多くの専攻分野，多くの学歴レベル，多くの教育方法，多

くの専門職業の一出版教育システムを形成している。専攻分野から見ると：編集専攻，編集学専攻，科学技術編集専攻，出版管理専攻，出版技術専攻，印刷技術専攻，印刷図文情報処理専攻，印刷設備管理専攻，書籍装帧専攻，電子出版専攻，図書発行専攻等出版の各分野に涉っており，多くの専攻特徴を有している；教育レベルから見ると：普通高等教育，高等専科教育，中等職業教育と様々である。育成の学歴レベルからみると：博士学位，修士学位，双学士学位，学士学位，専科生，中専生，職業中高生である；教育方法から見ると：正規全日制高校，放送大学，通信大学，職業大学，成人教育独学試験，企業からの大学への委託教育，専攻証明クラス，勤務時間外教育，育成訓練クラス，補修クラス，短期訓練クラス，研究討論クラス，研修クラス等である；養成目標と職業から見ると：文字編集，技術編集，オンライン編集，校正，印刷管理幹部，発行管理幹部，出版営業幹部を養成目標とし，および出版社，雑誌出版社，新聞社，プロバイダー，印刷工場，声像電子複製機構，新華書店などの各階層の専任者，管理人員，技術人員及び現場の中心人物である。

出版教育の発展は今日までに，一定の教育規模と社会的効果をもたらし，多大な成果を取得しているといえる。これは中国出版教育事業の最もきわだった特徴である。

(2) 出版専攻教育において編集学専攻の力が最も強く，出版専攻教育の主導的役割を果たしている。それは以下の3方面において現れている：編集学専攻は高等教育機関で最も多く開設されている専攻の一つで，現在少なくとも15の高等教育機関でこの専攻を開設しており，その多くは有名大学，重要大学である；編集学の学術研究の成果は多く，強大な学術的な力と勢力を有している；専科教育のレベルは比較的高く，多くの大学の編集学専攻は双学位，修士研究生の学歴教育を行っている。編集学専攻は中国出版教育の最も優れた専攻といえる。人々は出版教育を“編集出版教育”と呼び，出版学を“編集出版学”と呼び慣らすようになった。これは我が国の出版学，編集学の学科発展のアンバランスさと学術的な力関係とある種の関連がある。

(3) 出版関係の専攻の名称は統一されておらず，カリキュラムにも比較的大きな差異がある。調査によると，出版専攻の名称と区分は細かいものと寛いものがあり一様ではない。編集専攻には図書編集専攻，科学技術編集専攻，編集学専攻など多くの名称がある；印刷専攻は印刷管理専攻，印刷技術専攻，製版専攻，印刷工程専攻，包装工程専攻，印刷図文情報処理専攻等がある；さらに出版専攻と呼ぶものもあり，これは特に出版専攻管理，技術編集の部門系に重点を置いている；これとは対照的に，図書発行専攻と書籍装帧デザイン専攻は比較的違いが少ない。さらに各学校のカリキュラムにも大きな差がある；学科基礎課程，専攻基礎課程と専攻課程は各学校がすべて同じとは限らず，学生の能力の向上を重視している。客観的にみても就職競争の圧力を避けることはできるが，我が国の出版教育事業の長期にわたる発展と，教育委員会の高等教育における“門を広く，基礎を厚く”といった要求からみるとさらなる調整が必要である。

(4) 独立して学科を設立している所は比較的少なく，他の学科のもとで運営されているものが比較的多い。筆者が把握している資料によると，長期にわたり単科大学，学部，

専攻の3つの形式を備え運営している全日制の高等教育機関は2校しかなく、それは中央新聞出版総署直属の学校である：北京印刷学院と上海出版印刷高等专科学校で、現在の2校は地方教育委員会に帰属している。その他の学校の出版系列専攻の多くは非出版系の学校のもとで運営されており、例えば南開大学、河南大学、四川大学、北京師範大学、西北大学、東北師範大学の編集学本科教育は中文学科で指導されており、編集学双学位教育を開設している清華大学でも中文学科で指導されている；北京大学、南京大学、安徽大学、旧武漢大学の出版系専攻は図書館学学科、情報管理学科等別の学科のもとで指導している。これは一種の“居候”の感を与え、正しい方法とは言えず、専攻学科の発展と学位教育管理に対して多くの不都合がある。

(5) 出版系専攻の配分はアンバランスである。我が国は全部で20余りの高等教育機関が出版系の専攻を開設している。しかし多くの高等教育機関は編集専攻で；印刷専攻も開設校は3,4カ所（上海出版印刷高等专科学校、北京印刷学院、武漢大学印刷工程学院等）；発行専攻開設の高等教育機関は元来6,7カ所だったが、1998年以降多くの学校がみな国家教育委員会の専攻学科目録をもとに編集出版学専攻に変更し、例えば中山大学、安徽大学等、現在は武漢大学、北京印刷学院の2高校のみで生徒募集を続けている。そのため全体的には、中国の出版教育の専攻の配分は現在バランスが悪く、専攻の花形は編集学専攻になっている。また印刷専攻と出版技術管理、出版物市場営業と出版業務貿易等の方面の専攻は相対的に手薄で、出版業の人材需要と合致していない。

3. 中国出版教育の発展視点

中国の改革解放が絶えず深まり続けるにつれ、今年末にもWTOへの加入が見込まれ、出版業界も多くの挑戦と機会に直面し、同時に出版専攻教育と人材の需要に対しても更に高度な要求が出されている。中国の未来の出版事業に対し、出版教育はまず以下の2点に留意しなければならない。

(1) 出版商業事務貿易等の複合型人材育成の重視

伝統的編集専攻は特に編集出版の基礎知識の教育と基礎能力の育成に力を注いできた。しかしその他の各学科や分野等の知識教育に対してはなおざりで、その為に編集専攻卒業生は出版知識業務の能力は比較的高いがその他の学科の理論知識は比較的浅い。中国の多くの出版社のほとんどは特定の出版方針と専門分野があり、単に編集専攻卒業の学生は往々にして専門書籍と学術書籍の編集出版業務の任に堪えることができない。ここ数年出版部門は高レベル（修士、博士）、高学歴の専攻の卒業生に重点を置いているため、編集学専攻の卒業生にはかなりシビアである。1991年武漢大学で一期分の編集学双学士学位の卒業生20人に、出版社の割り当てはたった1人だった。しかし出版部門の市場経済への進出以後、需要が最も多いのが出版商業事務貿易、出版市場営業と出版版權業務、出版经济管理面の複合型で高階層の人材であるが、学校が出版部門にこれらの専攻の卒業生を

提供するにはとても限りがある．出版教育と社会需要の極端な不均衡が生まれているのである．

学科の性質については，出版分野専攻に属す編集・印刷・発行の三大専攻の中で，印刷専攻付属工業技術学科は，比較的強い専門性があり独立した就職傾向にあり，編集，発行分野専攻との競争は少ない．編集・発行専攻は文化と経済を中心にしており，専門教育上多くの類似点がある．出版業務それ自体は一種文化と経済に密接なつながりのある職業である．筆者は，将来の出版教育需要が現在の専攻の狭さと，適応性の弱さを打破する必要がある，国家教育委員会が公布した専門の中心カリキュラムを基礎として学科建設を進め，同時に伝統的出版の人材の枠組みを踏み越え，出版教育のあるべき姿を整え，出版商業業務人材と応用型・複合型人材の育成を重視し，出版教育のサービス面をさらに拡大すべきだと認識している．

(2) 電子出版とオンライン編集出版の人事育成の重視

出版は既にインターネットに向かって進行し，オンライン技術は出版の技術，形式と手段を開拓した．オンライン出版は“編集と印刷の一体化”の境地にたどり着いた．オンライン出版技術の特殊性から，中国においてオンライン出版に従事する人員の絶対多数はコンピューターとインターネット業界の専門人員で，編集出版専門の知識と基本技能が不足しており，出版情報の識別・選択に対し，編集加工，配列デザイン，ひどいものはタイトル作成，句読点記号・技術記号の応用，計量標準の応用等編集出版の基礎知識もはなはだ少なく，ひいてはオンライン上の出版物を“読むに絶えない”ものになっている．オンライン編集専門人員の知識の欠如は，すでにオンライン出版の発展の大きな障害となっている．長い目で見ると，オンライン出版が日増しに発展し，オンライン出版人員の不足が日増しに深刻になる．しかしオンライン編集人員の編集に対する知識技能の訓練，新しい能力，計画能力の育成と技術力の育成は，短期で成果がでるものではない．従って，オンライン編集出版人員の育成は今後の中国出版教育の新しい視野であり，出版教育の議事計画に組み入れるべきである．

現在北京印刷学院，武漢大学，上海出版印刷高等専科学校はすでに電子出版専攻を開設し，復旦大学新聞学院は“オンラインマスメディア専門”を正式に申請し，電子出版，オンライン出版とオンライン編集の人材養成が既に中国において始まっていることが明らかになった．

中国教育制度の絶え間ない改革と発展につれ，中国の出版教育事業も必ず新たな明日を迎えることを信じている．

(筆者：上海出版印刷高等専科学校講師 / 訳：木村恭子)